

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

大学院

人間生活学研究科

人間生活学研究科では、別に定める修了要件を満たした学生に修士(家政学)・博士(家政学)の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身につけていることを保証する。

1. 修士課程

人間生活について総合的な視野を持ち、専攻分野に関する高度に専門化された知識で生活研究者として研究を進めることができる。

高度の専門性を要する職業等に必要な高度で卓越した能力を身につけている。

知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養がある。

広い分野の知識を統合して、専攻分野の特定の問題に対する解決策を示すことができる。

2. 博士課程

自立して研究を行うに十分な専攻分野に関する最先端の知識と人間生活に関する豊かな学識を持ち合わせている。

高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を持ち、専門領域に関する問題解決のために取り組む態度を身につけている。

新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度を身につけている。

大学 家政学部

人間生活学科

人間生活学科では、別に定める卒業要件を満たした学生に学士(家政学)の学位を授与し、以下の知識、能力、態度が身についていることを保証する。

人間生活学科の教育目的を達成するために、ディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し、生活・福祉・建築のそれぞれの専門分野で、人文・社会・然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ、それぞれの専門知識と技術を修得し、それらを活用できる。
(知識・理解)
2. 高い教養と広範な専門性に基づき、広い視野に立って物事を柔軟かつ総合的に判断し、現代の生活・福祉・建築をめぐる諸課題を発見し、分析し、解決する能力を身につけている。
(課題探求力・問題解決力)
3. 建学の精神「尊敬・責任・自由」により、人間として人格形成を志向し、自己の専門知識と技術を社会のために活かし、社会的責任を果たすことができる。
(志向性、社会的責任)
4. 学修や実習などによる総合的経験や横断的思考力を活かして、地域社会における生活・福祉・建築に関する諸問題に新たな発想で取り組むことができる。
(総合的な学習経験、創造的思考力)

【生活総合コース】

生活総合コースのディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 衣・食・住・生活経営・消費・環境など広い生活領域と、衣・食に関する生活技術について、
広範な専門的知識と技術を修得し、それらを活用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、広い視野と総合的判断力をもって、生活をめぐる多様な課題を発見し、分析し、解決する能力を身につけている。(問題解決力)
3. 他者を尊重し、他者との協調関係を築き、社会形成者である市民としての社会的責任を果たすことができる。(倫理観、社会的責任)
4. 学修、視察・研修、卒業研究などで修得した知識を総合的に活用して、今後のライフスタイルを構想し、その実現方法を探究し、個人や家族、社会の生活の向上に貢献できる。
(総合的な学習体験、創造的思考力)

【福祉コース】

福祉コースのディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 介護福祉および社会福祉の2領域において、介護福祉士あるいは社会福祉士として必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらを応用できる。(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、高齢者や障害者(児)などを取り巻く社会環境を多面的かつ総合的に把握し、介護福祉および社会福祉をめぐる様々な問題に対処できる論理的思考力と問題解決へ導く能力を身につけている。(論理的思考力、問題解決力)
3. 他者を援助し、他者と協調できる人格形成を志向し、福祉を通して、社会的責任を果たそうとする態度と倫理観を身につけている。(倫理観、社会的責任)
4. 実習、地域交流活動、卒業研究などによる総合的経験と横断的思考力を活かして、地域の福祉をめぐる課題を解決する能力を身につけている。
(総合的な学習経験、創造的思考力)

【建築デザインコース】

建築デザインコースのディプロマ・ポリシーを次の通り定める。

1. 建築分野において、一級建築士(実務2年)および二級建築士、その他の建築関係資格取得者として必要な広範な専門的知識と技術を修得し、それらを活用できる。
(知識・理解)
2. 基礎知識と専門的知識により、住居や建築に関する問題を科学的根拠に基づいて論理的に思考し、解決できる。(論理的思考力、問題解決力)
3. 自然を尊重し、自然と共生可能な住環境の創造を志向し、人間と社会と自然の永続的存続という社会的責任を果たすことができる。(倫理観、社会的責任)
4. 建築物の視察、建築現場の視察・研修、卒業研究などによる総合的経験を活かし、地域の建築が抱える課題を広い知性と新たな発想で解決できる能力を身につけている。
(総合的な学習経験、創造的思考力)

食物栄養学科

1. 本学科所定の単位を修得し、以下の知識、能力等を身に付けた学生に対して卒業を認定し、学士(家政学)の学位を授与する。さらに、管理栄養士を目指して、十分に研鑽を積んでいる。
2. 栄養士として必要な知識・技能を有しており、それらを統合して自ら正しい食生活を体現し

て応用することが身に付いている。

3. 食、栄養や健康に関わる知識と技術を社会で応用し、人々の生活の向上に貢献できる能力を修得している。
4. 食と健康の専門的職業人として、人々の健康と生活の向上に寄与するという意識と責任感を持っている。
5. 食品衛生の専門家(食品衛生管理者・食品衛生監視員、いずれも任用資格)として、食品の製造加工の課程における衛生上の管理と指導ができる。

短期大学部

家政科 福祉情報専攻

家政科福祉情報専攻では、建学の精神である「尊敬・責任・自由」をよく理解して、幅広い教養と感性の教育を基本に自己確立を図り、女性の特性を活かして「私がいるとき、私が役立つ」ことができる人間として成長するとともに、本専攻の教育の目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位数を修得し、下記の能力を備えた学生に卒業を認定し、短期大学士(家政学)を授与する。

1. 生活の基本である衣・食・住の科学的知識に基づく実践力を活用して、時代のニーズに合った新しい家庭生活を営むために必要な生活技術を身につけている。
2. 奉仕の心とケアマインドを基本に高齢者・要支援者の特性を理解し、生活支援の技術と知識を修得し、地域社会に貢献できる行動力を有している。
3. ビジネス社会で役立つ人間として活躍するために、情報リテラシーとITスキルならびにプレゼンテーションスキル等の汎用的技術を身につけ、即戦力となり得る論理的思考力を有している。
4. 社会のルールを理解した倫理・道徳観を備えた人間として、ビジネスマナー、ホスピタリティ、礼儀作法ならびに美しい立ち居振る舞いを身につけ、さらに「思いやりの心」と「おもてなしの心」をもって周囲と接することができる自己管理能力を有している。
5. 幅広い学問を学ぶことによって豊かな創造力と人間性を培い、柔軟性のある論理的思考力と社会の変化を見極める力を身につけ、周囲と円滑に対応できるコミュニケーション力と適切な問題解決力・主体的行動力を有している。

家政科 食物栄養専攻

学科の目的に鑑み、本学所定の単位を修得し、次の成果が得られた学生に卒業を認定し、短期大学士(家政学)の学位を授与する。

1. 食と健康の関わりについて科学的に理解する能力を修得している。
2. 健康的な食生活を実践するための基本的技術が身につけている。
3. 食と栄養の専門性を発揮して、サービスの精神に基づいて社会に貢献する素養が身につけている。
4. 論理的思考と倫理観によって、食と栄養に関わる諸問題に対処する能力を修得している。

幼児教育学科

幼児教育学科所定の単位を修得し、以下の知識・能力を身につけた学生に対して卒業を認定し、短期大学士(教育学)の学位を授与する。

1. 教育・保育の本質を理解している。
2. 保育内容を理解し、保育を総合的に計画し実践できる。
3. 子どもの発達(心理的・身体的)を理解し、子どもを支援することができる。
4. 保育を実践するための方法や技術を身につけている。
5. 感性豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につけている。
6. 学修した知識や技術を統合し、問題を解決する能力が育っている。
7. 幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につけている。

生活芸術科

建学の精神から導かれる教育目的に従い、美術を中心とした芸術理論、表現技術、芸術に対する関心・態度・意欲、これらの領域で以下の目標を達成していることが認められた学生に卒業を認定し、短期大学士(美術)の学位を授与する。

1. 柔軟で応用力のある創造的思考を身につけている。
2. 専門領域の歴史と世界的動向を理解している。
3. 自らの表現意図に沿って、適切な素材とテーマを選択し、柔軟で応用力のある表現技術を獲得している。
4. 自らの見解を自主的に深める一方で現代の視覚文化にも対応できる姿勢を身につけている。
5. 社会の一員として、他者と協働しながら、社会を改善しようとする態度を身につけている。

音楽科

音楽科所定の単位を修得し、以下の専門的知識・技能等を身に付けた学生に対して卒業を認定し、短期大学士(音楽)の学位を授与する。

1. 幅広い教養や音楽についての知識を習得している。
2. ピアノ、声楽、管弦楽器の専攻実技の基本的な演奏技術力と表現力を習得している。
3. 様々な授業や学修体験を通して豊かな人間性と生涯にわたって主体的に学び続ける意欲を身に付けている。

4. 音楽に関する知識や技能を活かして社会に貢献する姿勢が身についている。

文化学科

以下にかかげる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して短期大学士(文化学)を授与する。

1. 基礎科目によって基礎的で総合的な知のあり方を理解している。
2. 専門教育において入門的な専門知識を修得している。
3. 文化について、専門教育において、深く幅広い知識を修得している。
4. 専門教育の実習を通して社会にかかわる力を身につけている。
5. 現代社会の多様な課題を自らの力で発見し、それらを分析し、解決する能力が身についている。
6. 専門的知識を活用し、論理的に課題を探求し、他者と協調し問題を解決していく主体的行動力が身についている。

専攻科

文化学専攻

以下にかかげる知識や資質を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、本学が評価を行い、「大学評価・学位授与機構」が審査し、学士(文学)の学位を授与する。

1. 専門的科目において、専門的知識を修得している。
2. 専門的科目において、研究能力が身についている。
3. 研究課題を適切な歴史学のテーマに設定する知識が身についている。
4. 研究課題の成果である論文を論理的、創造的にまとめる力が身についている。
5. 歴史学を専攻する学士(文学)の学位を取得することで、社会教育の充実発展に寄与できる能力が身についている。